



一人一人の輝きで「カラフル」に 個別最適な学びへシフト

6月号では、『「自律と探究」は未来を築く』と題して、未来を築く教育の出発点は今である、と書かせていただきました。昨年度6月はデルタ株の発生、9月は感染拡大での分散登校など、この2年間、コロナ禍もあり、教育界は大きく変わりました。iPadが当たり前のように文房具として取り扱われ、子供たちを主体とした「自律と探究」を目指した授業改善が急速に進められています。過去150年続いた一斉授業スタイルから、「令和の日本型学校教育」を目指す「個別最適な学び」へと大きくシフトしています。「個別最適な学び」について、改めて整理させていただきます。

「個別最適な学び」

子供たちの将来に向けた「学びに向かう力」を育むための大切な考え方です。多様な子供たちを誰一人取り残すことのないよう、一人一人の理解状況や能力・適性に合わせた学びです。一人一人を伸ばしていく学びです。「指導の個別化」と「学習の個性化」の2つの側面があります。

●「指導の個別化」

一定の目標に向け、一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じて、自分にぴったりの学びを進めたりする子供の姿です。「e-ライブラリアドバンス」が導入されているのも、一人一人の学びに合わせるためです。

●「学習の個性化」

一人一人に応じた学習課題やこだわりのある領域を深く学ぶ姿です。「MottoSokka!」を導入させていただいたのも、読書や新聞を通し、日頃から子供たちの気づきを探究心につなげるためです。

自分の学びを計画して進める力（学びの自己調整力）も同時につけてほしいと考えています。夏休みは個別最適に学ぶ絶好の機会のため、課題の選択肢を広げています。

カラフルに輝く準備はこれから

もうすぐ迎える夏休みは、個性をさらに輝かせるチャンスです。7月上旬には、夏休みの課題をTeamsで更新していく予定です。自分から探究したいことを見つけてほしいからです。保護者は、お子さんの個別最適な学びの一番の理解者です。お子さんに寄り添い、個別化、個性化されたものを見つけ出し、今から計画を立てることも「個別最適な学び」です。

夏休みの課題は、「A」、「B」、「C」の3つのうちから選んで取り組みます。「A」と「B」は従来の課題です。学校を經由して提出する作品等の募集です。一方で、昨年度から付け加えた「C」は、全国にある多くの課題を紹介しています。作文、絵画・工作、科学はもちろん、プログラミング、各種検定まで多種多様です。一覧にないものは、ご家庭で検索して取り組んでも構いません。「C」はご家庭で応募する形にはなりますが、与えられた課題ではなく、自分で選んで取り組むのも「自律と探究」です。詳細は後日、Teamsをご参照ください。カラフルに輝く準備をお願いします。

個別最適の理解者は保護者

子供のため、と保護者が身の回りのことをしてあげたり、習い事や学習塾に通わせたりすることも愛情のひとつですが、「押しつけ」にならないような注意が必要です。子供にとっては「親の言うことを聞く」ことになりかねず、自分で選んで進む「自律と探究」にはつながりません。「個別最適な学び」は、「OECD Learning Compass 2030」(*)の中でも、幸福な状態であるウェルビーイング(*)を目指し、自分の学びを自分で進める「エージェンシー(Agency)」（*)の力を身に付けることだと示されています。

未来を築く教育の出発点である今、変化がさらに激しくなると言われる2030年以降の世界をリードする子供たちを育てていけるよう、充実した夏を迎える準備をお願いします。本校の目指す学校像は「子供は愛されることによってさらに輝く～自律と探究～」です。保護者、地域の皆様の愛情で、一人一人の輝きで「カラフル」な学校となるよう、今後も、ご理解、ご協力をお願いします。

※OECD Learning Compass 2030 「OECD学びの羅針盤」と訳され、2019年に公表した学習の枠組みです。

※ウェルビーイング 身体的、精神的、社会的にすべてが良好な状態にあることを意味する概念です。

※エージェンシー 他人に自分のことを決めさせるのではなく、自分で決断することであり、他人に行動させるのではなく自分で行動すること。自分の未来を自分で形作る意味として訳されています。

※OECD 経済協力開発機構です。日本を含めた38ヶ国の先進国が加盟する国際機関です。①経済成長、②貿易自由化、③途上国支援に貢献することを目指しています。生徒の学習到達度調査(PISA)を実施しています。